



## 令和4年度 画像保存セミナー

1984年に始まった画像保存セミナーは、今回で39回目を迎えます。この間、画像保存に関連する技術は進化し、それをとりまく状況は大きく変化して来ました。

実体のある「画像」やデジタル化された「情報」の重要性は言うまでもありませんが、同時に、記録されていることの個人的・社会的・芸術的価値に簡単にアクセスできることが保存する意味をさらに増大させています。また文化財等の複製・記録手段に目を向ければ、さらなるリアリティの追求と利活用の拡大が重要となり、それが文化財保存の意義への理解を深め、災害対策にもつながると考えられます。画像保存に関わっている方々にとっては、これら広範な分野の知識が、画像保存の将来に対してより大きな意味を持つ時代になっているのではないのでしょうか。

本セミナーの講演は、これらの状況を背景に実行委員会が毎回選定しており、今回の講演も上記の観点で参加者のみなさまの知見を拓けることに役立てばと期待しています。

今年もコロナ禍中での開催となります。本パンフレット作成時点では、2年ぶりのリアル開催（会場での開催）を目指して準備を進めていますが、今後の状況次第で、やむなくオンライン開催に変更する可能性もございます。この点につきましては、なにとぞご理解とご協力をよろしくお願い致します。

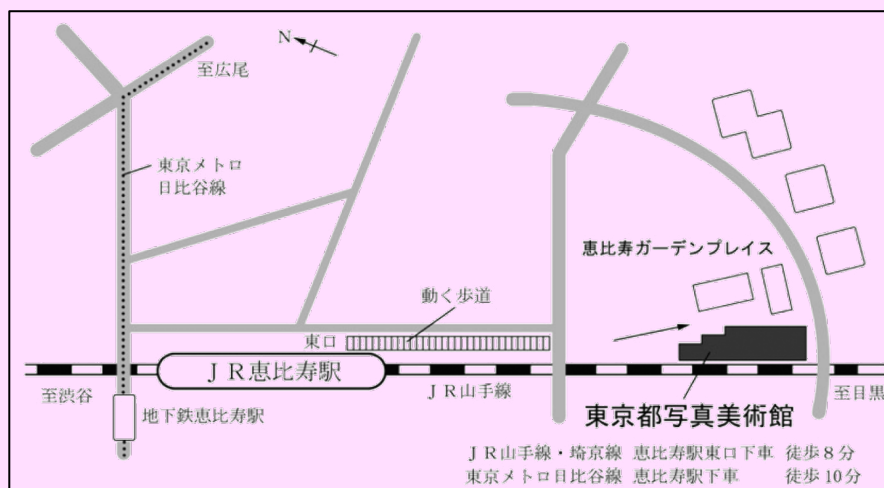
画像保存と関連分野に従事されているみなさまをはじめ、画像保存に関心をお持ちの多くのみなさまに、ご参加を賜りたく、ご案内申し上げます。

日時：2022年12月2日（金）

10時00分～18時15分 <9:30受付開始>

場所：東京都写真美術館ホール

東京都目黒区三田1-13-3 恵比寿ガーデンプレイス内



主催 一般社団法人 日本写真学会

協賛：日本写真芸術学会／公益財団法人日本博物館協会

公益社団法人日本写真家協会／文化遺産国際協力コンソーシアム

日本アーカイブス学会／情報保存研究会

一般社団法人日本オプトメカトロニクス協会／一般社団法人画像電子学会

一般社団法人日本印刷学会／一般社団法人日本画像学会

アート・ドキュメンテーション学会

協 力：東京都写真美術館

後 援：一般社団法人文化財保存修復学会

## セミナープログラム

10:00 開会挨拶 セミナー実行委員長

10:10 講演 1. 写真を対象とした画像データベースの構築と公開

国立民族学博物館 丸川雄三

11:10

画像情報の整理と活用にはデジタル技術が欠かせない。地域研究画像デジタルライブラリ (DiPLAS) の取り組みを例に、写真を対象とした画像情報のデータベース構築と公開における具体的な手法や課題について考える。

11:20 講演 2. 半導体長期保存メモリ

東京大学 竹内健

12:20

データの長期保存に向けてフラッシュメモリ (SSD)、抵抗変化型メモリなど様々な半導体メモリの動向に関して講演する。半導体メモリには容量 (コスト)・信頼性・性能・電力などの間にトレードオフが存在する。データの長期保存に向けて、トレードオフをどのように解決するか、今後の技術動向についても紹介する。

— 休憩 (70 分) —

13:30 講演 3. なぜ残し、どう残すのか — 図書資料の保存・修理とは/基本的な考え方と手法—

日本図書館協会 眞野節雄

14:30

図書館には視聴覚資料など多くの媒体の資料があるが、今回は図書を主とする紙資料について、その保存・修理の基本的な考え方と技術を解説する。あわせて、図書館資料を保存し、伝えていく意味についてもお話ししたい。

14:40 講演 4. 質感工学とその応用

千葉大学 津村徳道

15:40

人間工学用の高品質なビッグデータの構築と活用の中で、色彩工学も質感工学への展開が期待されている。色彩工学が、 $L^*$ 、 $a^*$ 、 $b^*$ 等の低次元であるのに対して、質感工学では、 $L^*$ 、 $a^*$ 、 $b^*$ 、 $\rho_s$ 、 $\sigma$ …、…、といった高次元であるため主観評価実験数の爆発という問題がある。そこで、本講演では、質感工学を、①質感工学 1.0: 低次元化 (ドメイン限定) ②質感工学 2.0: クラウドソーシング (Web2.0) による大規模主観評価実験 ③質感工学 3.0: 情動工学による良質 BigData に分類して紹介する。

— 休憩 (15 分) —

15:55 講演 5. ISO/TC 42 の画像保存関連標準化活動の紹介

富士フイルムホールディングス株式会社 芝原嘉彦

16:55

ISO/TC 42/WG 5 等では、写真プリント類の保存耐久性評価の ISO 標準を制定し、現在も活発に標準化を行っている。一般消費者/商業/美術館用途の銀塩、インクジェット、電子写真他多くの材料、デジタル画像記録媒体までを対象としている。その内容を総括的に紹介する。

17:05 講演 6. 横浜市所蔵カメラ・写真コレクションの保存・活用とダゲレオタイプの保存に関する調査について

横浜市民ギャラリーあざみ野 日比谷安希子

18:05

横浜市民ギャラリーあざみ野では、横浜市が取得したアメリカのサーマン・F・ネイラー氏旧蔵の約 12,000 件のカメラ・写真コレクションを収蔵管理している。その保存・活用と、管理のために 2018 年にアメリカで調査したダグレオタイプの保存方法について報告する。

## 18:05 閉会挨拶 日本写真学会会長

\*各講演時間には質疑・応答の時間を含みます。なお、主催者以外の写真・ビデオの撮影、録音は講演者および他の参加者の迷惑となるだけでなく、著作権の問題を含みますので禁止させていただきます。

## 参加申し込みについて

### セミナー参加費（講演要旨集代を含む）

日本写真学会および協賛学協会々員	……………	6,000 円
非会員	……………	8,000 円
学 生	……………	2,000 円

非会員の方：参加申込前に入会手続きを取って頂ければ、会員価格での参加が可能となります。

(入会申込はこちらから⇒ <https://forms.gle/nYmhzmGfXZEsWaoG8> )

日本写真学会の賛助会員所属で非個人会員の方の取り扱いに関しては、賛助会費の口数に応じた人数枠に対して申し込み順に会員扱いとなります。枠を超えた分は非会員扱いとなります。会員枠が残っているかどうかにつきましては、ご面倒でも事務局にお問い合わせ下さい。

**定 員** 180 名（定員になり次第締切りますのでお早めにお申し込み下さい）

**申込締切** 令和 4 年 11 月 25 日（金）

なお、締切を過ぎても定員を満たしていない場合は申込の受付延長を行います。

## 参加申込と参加費支払方法

参加希望の方は、イベントサブドメイン <https://www.events.spij.org/> から「令和 4 年度画像保存セミナー」ページの【参加申込】該当する参加区分を選択して参加登録（Google Forms）に記入・送信した後に、「お支払い手続きへ」お進み、そこから参加費をお支払いください。

支払方法は、クレジットカード、ApplePay または GooglePay が利用できます。

※コンビニ決済についても現在準備中です。ご利用いただけるようになりましたらお知らせいたします。

なお、一旦振り込まれた参加費の返却は致しかねますので、ご都合が悪くなった場合には代理の方の参加等でご対処をお願い申し上げます。

**連絡先** （一社）日本写真学会事務局 画像保存セミナー係

〒164-8678 東京都中野区本町 2-9-5 東京工芸大学内

E-mail : [info@spij.jp](mailto:info@spij.jp) Tel : 03-3373-0724 Fax : 03-3299-5887

## 日本写真学会にご入会下さい

この機会に、会員でない皆様には当学会に入会されることをおすすめします。  
セミナー当日、受付に入会申込書がありますので、ご記入の上お申し込み下さい。  
また、学会 HP（下記 URL）からも申し込めます。

年会費： 正会員 8,500 円 学生 3,000 円

一般社団法人 日本写真学会 事務局  
〒164-8678 東京都中野区本町 2-9-5  
東京工芸大学内  
Tel. 03-3373-0724 Fax. 03-3299-5887  
URL <https://www.spj.jp/>

このセミナーは、下記の組織で企画されました。

一般社団法人 日本写真学会

会 長：中野 寧 副会長：加藤 隆志 山田 勝実

画像保存セミナー実行委員会

委員長： 水口 淳（カメラ・写真技術解説家）

委 員： 大関 勝久（名古屋大学）

大林 賢太郎（京都芸術大学）

白岩 洋子（白岩修復工房）

清野 晶宏（IMAGICA エンタテインメントメディアサービス）

山口 孝子（東京都写真美術館）

山野 泰照（写真家・写真技術研究家）

吉田 英明（OMデジタルソリューションズ）

綿引 雅俊（インフォマージュ）

（五十音順）